

## 第17回エステティック学術会議

「化粧品の最新情報と安全性」をテーマにWebで配信

(公財)日本エステティック研究財団(関東裕美理事長)は、11月1日～11月30日までの期間、「化粧品の最新情報と安全性」をテーマにした第17回エステティック学術会議をWebで配信します。受講料は無料、講演内容は以下の通りです。

### 基調講演 「機能性化粧品の安全性と効能評価」

関東 裕美氏 公益財団法人日本エステティック研究財団 理事長

### 教育講演 「アンチエイジング化粧品 ～シワ・シミ対策～」

大場 愛氏 株式会社ポーラ ブランドクリエイティブ部

### 教育講演 「メンズのための紫外線ケア&基本メイク～ワンポイント魅力アップ提案～」

山口 知美氏 株式会社資生堂 グローバルブランド価値開発センター クロスブランド価値開発室

### 共催セミナー(共催 一般社団法人日本エステティック協会)「近年における生活者の美容意識・行動について～web調査の結果から～」

村上 泉子氏 花王株式会社 化粧品事業部門 ビューティリサーチ&クリエイションセンター

なお、受講には登録が必要です。

[登録はエステティック研究財団ホームページから info@jerf.or.jp。](mailto:info@jerf.or.jp)

---

## 東京ネイルエキスポ2024

開催テーマは「ネイルの未来、更にその先へ」

NPO法人日本ネイリスト協会(仲宗根幸子理事長)は、11月24日(火)、25日(月)の2日、東京ビッグサイトにて『東京ネイルエキスポ2024』を開催します。

東京ネイルエキスポは最新のネイル情報が東京に集結する世界最大級のネイルイベントとして、1999年より開催されており、今回で26回目を迎えます。

最新のネイルプロダクトが揃うトレードショーを中心に、ネイルの素晴らしさを伝えてくれている著名人を称えるネイルオブザイヤー(2023年よりネイルクイーンから名称を変更。発表は11月11日のネイルの日)。世界ネイリスト選手権、全日本ネイリスト選手権をはじめネイルの技術を競うネイルコンペティションやトップネイリストがテクニックを発信するステージやセミナー(クラスルーム)。そして昨今、ニーズが高まっているネイルケアのプロフェッショナルな技術を体験できるネイルケア技術体験コーナーなど、ネイルの文化、トレンド、そして最新技術体験できます。

なお来場には事前登録が必要です。詳細はネイリスト協会ホームページを参照ください。[NPO 法人 日本ネイリスト協会 \(nail.or.jp\)](http://nail.or.jp)



東京ネイルエキスポ 2023 オープニングセレモニーの様子

---

## 2023 年度の国内化粧品市場規模

前年度比 104.6% の 2 兆 4,780 億円

榊矢野経済研究所は、国内の化粧品市場を調査し、製品カテゴリー別や流通経路別の動向、参入企業動向、将来展望について、ニュースリリースで公表しました。

### 1. 市場概況

2022 年より日本政府が個人旅行客の受入れや査証免除措置の再開等を実施したことを受け、インバウンド（訪日外国人客）需要も回復傾向にある。また、2023 年に新型コロナウイルス感染症法上の位置づけが 5 類へ移行したことなどをを受けて外出機会が増加し身だしなみへの意識も高まり、化粧品需要も増加した。2023 年度の国内の化粧品市場規模（メーカー出荷金額ベース）は、前年度比 104.6% の 2 兆 4,780 億円となった。

2023 年度の化粧品市場を製品カテゴリー別にみると、スキンケア市場が構成比 46.6%（1 兆 1,550 億円）と最も高く、次いでヘアケア市場は同 19.9%（4,930 億円）、メイクアップ市場が同 18.8%（4,650 億円）、男性用化粧品市場は同 5.4%（1,330 億円）、フレグランス化粧品市場が同 1.3%（326 億円）と続いた。

### 2. 注目トピック

注目を集めるアジアコスメの最新動向

日本国内において、韓国コスメ、中国コスメ、タイコスメ、台湾コスメなどのアジアコスメの人气が上昇している。

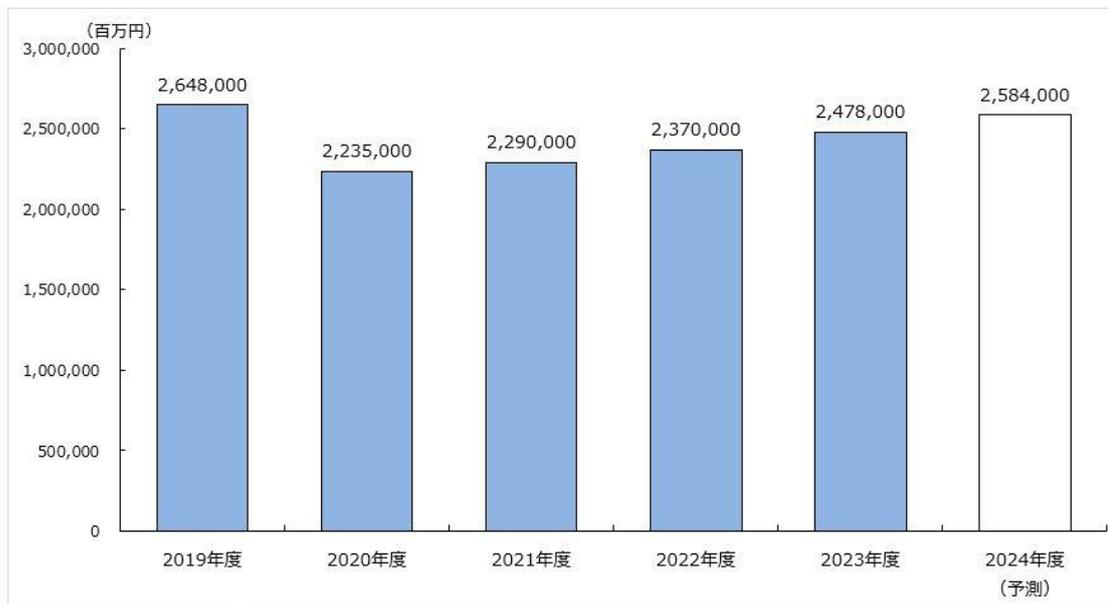
これらのアジアコスメの規模感を示す 1 つの指標として、財務省が発表する貿易統計がある。貿易統計によると、韓国からの化粧品輸入金額は 2023 年に 959 億 6,200 万円（前年比 123.8%）となり、国別でフランスなどを抑えて 1 位となっている。その他 2023 年

は、中国からの化粧品輸入金額が 498 億 5,300 万円（同 116.9%）、タイからの化粧品輸入金額は 332 億 8,700 万円（同 107.3%）、台湾からの化粧品輸入金額は 32 億 200 万円（同 98.0%）となっており、アジアコスメ全体での輸入金額は拡大の一途をたどっており、日本におけるアジアコスメのプレゼンスが高まっている。

### 3. 将来展望

2024 年度以降も引き続き需要は回復し、国内化粧品市場は回復基調が鮮明になりつつある。原材料等のコスト高騰や製品の高付加価値化による製品単価上昇の他、インバウンド需要も順調に回復しており、2028 年度の化粧品市場規模は、2023 年度比 110.6%の 2 兆 7,400 億円まで成長を予測する。

#### 国内の化粧品市場規模推移と予測



注1. ブランドメーカー出荷金額ベース  
注2. 2024年度は予測値

矢野経済研究所調べ